

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや普通科総合選択制ならではの多様な学びを通じて、生徒一人ひとりの興味、関心や学ぶ意欲を育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 興味、関心や学ぶ意欲と確かな学力
- 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）
- 将来の目標に向かって持続的に努力する粘り強さ
- 豊かな人権感覚、地域や社会に貢献する姿勢

2 中期的目標

1. 新たなステージへの進化

普通科総合選択制高校、地域に根ざした高校としての実績、強味を最大限生かした高校再編事業に取り組む。
高校再編 PT を継続し、改編に向け、施設の充実、教育内容の具体化等に取り組む。
新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者にしっかりと理解してもらえるよう、丁寧で広範な広報活動に取り組む。

2. 確かな学力の育成と進路実現

- ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。
ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。
ICTの積極的活用をはじめ、多様な授業改善に取り組む。
教員のニーズに応じた研修の充実を図る
- イ 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）の育成
生徒の興味や関心、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「考える」授業づくりに取り組む。
高校改編を見据え、普通科総合選択制高校の特色であるエリアの学びを共有、発信する「エリア発表会」（2年次）を継続、発展させる。
「総合的な学習の時間」やLHR、学校行事を通じて、つながる力（コミュニケーション力）や発信力（プレゼンテーション力）を育てる。
- ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。
学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行っていく。
「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりにとって満足度の高い進路実現をめざす。
a. 生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」、b. 普総選アンケート（3年）「進路は選択エリアと関連があった。」の各項目について3年目のH29にはa.90%、b.80%をめざし、H31までその水準を維持する。

3. 豊かな人権感覚の醸成

- ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。
イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。
ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自己肯定感を醸成し、公共心やボランティア等社会貢献への意識を育てる。

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

- ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実を図る。
高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。
状況把握、経過観察、情報共有に努める。
必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。
- イ 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。
共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。
3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労100%をめざす。

5. 規範意識の醸成

- ア 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。
イ 部活動加入を積極的に奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。日々の部活動を通じて協調性や積極性、努力する態度を育てる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分] 数値は H28 の肯定的評価 < 【 】 内は H28 の肯定的評価 >	学校協議会からの意見
授業改善 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 65.3% 【63.7%】 1年 59.6% 【61.8%】 2年 57.9% 【66.9%】 3年 76.3% 【61.5%】 教員 97.6% 【97.5%】 「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」 生徒 71.8% 【68.9%】 1年 70.1% 【65.7%】 2年 60.8% 【72.2%】 3年 81.9% 【68.0%】 教員 97.5% 【100%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 68.5% 【67.9%】 1年 72.2% 【59.6%】 2年 56.7% 【78.1%】 3年 74.7% 【63.5%】 教員 100% 【95.1%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」 生徒 68.8% 【68.0%】 1年 65.1% 【62.1%】 2年 60.5% 【72.2%】 3年 78.4% 【68.3%】 教員 100% 【100%】	第1回 7月15日（土） ○30年度に再編があるため、学校経営計画も大胆に変えてよいのでは。 ○地域で高等教育をするための意味を明確に。 ○「豊かな人権感覚の醸成について」は社会や環境が変わってきているため、新しい視点をいれていくべき。共生推進教室もあるため、障がい者を取り巻く色々な感覚や感性を取り入れていく。 ○人権感覚は育てられるものであるため、しっかり身に付けて地域に出て行ってほしい。 ○中学生にとって高校の授業を受ける、高校の先生の話を聞くということはずごく刺激になる。 ○学校が発する情報は強すぎるくらいがちょうどよい
学校の満足度 「金剛高校に満足している。」 生徒 85.1% 【87.1%】 1年 82.6% 【87.1%】 2年 76.2% 【90.7%】 3年 96.2% 【83.0%】	第2回 10月22日（土） ○福井県で起きた、教員にいき過ぎた指導をどう考えるのか？先生の人権感覚を磨く取り組みなどは行っているか？ ○学習意欲向上の為に取り組んでいることは？ ○すこやかネットで、金剛のダンス部が参加してくれ繋がりを感じた。金剛の人氣が

府立金剛高等学校

<p>「エリアや授業は将来の役に立つと思う。」</p> <p>生徒 87.6% 【86.8%】 1年 90.5% 【90.9%】 2年 83.2% 【88.3%】 3年 88.8% 【81.2%】</p> <p>☆「普通科総合選択制高校アンケート」(3年)</p> <p>「普総選高校で学んでよかった」 93.0% 【86.9%】 「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」 74.4% 【64.1%】</p> <p>安全で安心な居場所、クラスづくり</p> <p>「クラスは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」</p> <p>生徒 82.5% 【84.6%】 1年 79.9% 【84.8%】 2年 83.3% 【85.5%】 3年 84.2% 【83.4%】</p> <p>「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」</p> <p>生徒 80.7% 【72.5%】 1年 75.7% 【68.9%】 2年 74.0% 【75.4%】 3年 89.9% 【72.4%】</p> <p>人権問題への理解、社会的課題への関心</p> <p>「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」</p> <p>生徒 87.5% 【84.1%】 1年 90.8% 【94.5%】 2年 73.9% 【75.5%】 3年 94.5% 【84.0%】</p> <p>「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」</p> <p>生徒 82.3% 【80.0%】 1年 81.9% 【78.3%】 2年 73.3% 【80.4%】 3年 89.4% 【81.1%】</p> <p>「HRや発見(総合)で生き方や将来を考える機会があった。」</p> <p>生徒 88.8% 【80.8%】 1年 90.5% 【89.4%】 2年 80.3% 【77.3%】 3年 94.1% 【76.0%】</p> <p>☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」(3年)</p> <p>「人権に関心を持っている。」</p> <p>3年次 83.7% 【81.2%】 ← 1年次 65.8% 【62.2%】</p> <p>「自分を大切にしている気持ちが高まった。」</p> <p>3年次 76.0% 【62.8%】 ← 1年次 70.8% 【70.0%】</p> <p>「人間関係の大切さを学んだ。」</p> <p>3年次 89.5% 【80.8%】 ← 1年次 92.2% 【93.3%】</p> <p>「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」</p> <p>○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』</p> <p>3年次 57.3% 【57.1%】 ← 1年次 60.3% 【43.4%】</p> <p>○『何もせずに黙っている。』</p> <p>3年次 14.0% 【10.4%】 ← 1年次 13.7% 【12.8%】</p> <p>進路指導</p> <p>「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」</p> <p>生徒 90.9% 【90.1%】 1年 90.5% 【91.7%】 2年 86.3% 【91.5%】 3年 94.8% 【87.1%】</p> <p>「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」</p> <p>生徒 84.6% 【78.6%】 1年 78.9% 【78.4%】 2年 80.7% 【74.4%】 3年 92.0% 【83.9%】</p> <p>「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」</p> <p>生徒 80.1% 【78.5%】 1年 72.7% 【72.0%】 2年 77.2% 【82.8%】 3年 88.6% 【78.8%】</p> <p>生徒指導</p> <p>「学校生活全体の指導は適切である。」</p> <p>生徒 78.7% 【81.9%】 1年 77.5% 【82.1%】 2年 72.8% 【84.1%】 3年 84.1% 【79.1%】</p> <p>「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」</p> <p>生徒 67.1% 【74.2%】 1年 66.7% 【73.5%】 2年 65.2% 【72.9%】 3年 68.9% 【76.5%】</p>	<p>高く、専門コースや共生推進があるのが魅力的で南河内で注目されている。自身の中学では、英語の授業に力を入れていて、金剛高校は英語教育はどんな取り組みをしているのか？</p> <p>○総合選択制ではなぜなくなるのか？</p> <p>第3回2月3日(土)</p> <p>○成績不振者の意欲をのばせない背景は何か？</p> <p>○ストレスコントロールをするための対策をとって欲しい。</p> <p>○通学時：赤でもつっぱしっていて危険(自転車)。</p> <p>○金剛高校の生徒はあいさつができています。</p> <p>○行きたい学校の金剛高校であって欲しい。情報発信をこれからもして欲しい。</p> <p>○地域に発信をすることは、関心を持ってもらえる大切なこと。</p> <p>○LGBTを受け入れる学校として、どのような教職員が勉強をしているのか？</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 新たなステージへの進化	普通科総合選択制高校、地域に根ざした高校としての実績、強味を最大限に生かした学校づくり	高校再編PTを継続。 H30開設に向け、施設の充実、教育内容の具体化、丁寧で広範な広報活動に取り組む。	学校協議会に準備の進捗状況を報告し、意見をもらう 近隣の中学校や連携先の学校、団体等にも意見をもらう	5月以降再編PT開催。10回開催(1/9現在)。「学校概要」の完成及び教育委員会議承認後WebUP。 学校説明会用パンフレット、ポスター、パワポ作成。ラーニングコモンズの整備完了。普通科再編による定員削減に伴う教員体制の見直し。共生推進教室カリキュラムの検討。HR・総合の計画の検討。エリア実施行事の検討。高大連携の検討など、普通科再編に伴う学校体制の再構築を行いつつある。再編PTは今年度で役目を終え、次年度以降は将来構想検討委員会で懸案事項の検討を実施する予定。(○)

府立金剛高等学校

<p>2. 確かな学力と進路実現</p>	<p>ア わかりやすい授業づくり</p> <p>イ 「考える」授業づくり</p> <p>ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信</p> <p>エ 進路に向けた意識の醸成</p>	<p>ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。</p> <p>授業改善研修の充実。</p> <p>授業公開、各教科での研究授業の実施。</p> <p>ICT設備の維持、活用。</p> <p>イ. 授業での言語活動を重視し、グループでの学習活動や発表の機会を取り入れる。</p> <p>各エリアでの学習の充実を図り、エリア発表会でその学習成果を発表する。</p> <p>ウ. 特色ある授業や取り組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。</p> <p>生徒の成長や学習成果を地域に発信する。</p> <p>発達と保育 : 保育所での実習</p> <p>保育音楽 : 保育所交流</p> <p>進路指導部 : 幼稚園交流</p> <p>社会福祉基礎 : 小学校の授業見学・交流福祉施設との交流</p> <p>手話・点字 : だいせん高等聴覚支援との交流</p> <p>生活文化エリア : 保育所交流 幼稚園交流 秋まつり (障がい者の余暇活動支援)</p> <p>理数科学エリア : わくわく実験室 (小学生4-6年対象) 等</p> <p>エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「わかりやすい授業」【63.7%】→65%、「学力を伸ばす工夫」【68.9%】→70%、「授業が静かで集中できる」【67.9%】→70%、「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」【68.0%】→70.0%を目標に取り組む</p> <p>イ. エリア指定科目等での言語活動を重視した探求型・体験型授業の実践</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」【86.8%】→90%</p> <p>普総選択アンケート(3年)「進路は選択エリアと関連があった」【64.1%】→80%を目標に取り組む</p> <p>ウ. 保育や福祉、芸術、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流の継続実施</p> <p>葛城中(2年生)体験授業、じないまち芸術展、エリア発表会の開催</p> <p>取り組みの感想やアンケート等をもとにした生徒の満足度→80%を目標に取り組む</p> <p>エ. 生徒向け学校教育自己診断「進路に必要な情報や機会の提供」【90.1%】→90%超え、「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」【78.6%】、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」【78.5%】→それぞれ80%を目標に取り組む</p>	<p>ア. 教育センター高等学校推進室長による「今後求められる学力と授業力向上」のテーマでの研修。新学習指導要領に向けた教育センターメールマガジンの配信。公開授業月間時、校長による授業見学の実施、授業改善に向けた助言。授業見学票の配布による授業交流を促進。授業アンケート結果に基づく各自、教科で授業の振り返り、授業改善策を生徒にフィードバック。授業の工夫、改善に取り組む機運が高まりつつある。</p> <p>全ての項目において昨年度を上回る数値。今後とも次世代の社会の形成者に必要な学力の獲得に向け授業改善に取り組む。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断</p> <p>「わかりやすい授業」65.3%【63.7%】</p> <p>「学力を伸ばす工夫」70.1%【68.9%】</p> <p>「授業が静かで集中できる」68.5%【67.9%】</p> <p>「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」68.8%【68.0%】</p> <p>イ. 保育・福祉、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流に今年も活発に取り組む。エリア指定科目や選択授業等での実習、課題研究、発表等の言語活動が定着してきた。芸術系授業は地域への発信にも熱心。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断あ</p> <p>「エリアや授業は将来の役立つ」87.6%【86.8%】</p> <p>普通科総合選択制高校アンケート(3年)</p> <p>「進路は選択したエリアと関連があった」74.4%【64.1%】</p> <p>ウ. 福祉基礎で藤沢台小と、地域実習で津々山台幼等と昨年に引き続き今年も授業交流を実施。中高連携の一環で葛城中2年生の進路学習の本校での体験授業を1/26実施。7年目。2/7にエリア発表会を実施予定。(すばるH)じないまち芸術展を12月に開催。ともに5年目。目標値には若干達していないものの学校全体としては昨年並み。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断</p> <p>「他の学校や幼稚園・保育園や地域の人々に関わる機会」78.6%【80.3%】</p> <p>エ. 全ての項目において昨年度を上回る。今後とも生き方としての「進路」の観点から、社会で求められる資質・能力の育成と学力向上とタイアップしつつ生徒の進路実現に学校全体として取り組む。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断</p> <p>「進路に必要な情報や機会の提供」90.9%【90.1%】</p> <p>「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」84.6%【78.6%】</p> <p>「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」80.1%【78.5%】</p>
----------------------	---	--	--	---

府立金剛高等学校

<p style="text-align: center;">3. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション（1年）、クラス スタートアップ、個人面談、遠足に至る年度 当初クラスづくりを通じて、安心感のある 高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の 関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体 験等、生き方を考えさせる人権学習、総合 学習を企画し、実施する。 人権研修の充実。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」 【87.1%】「一人ひとりが尊重 され気軽に話せるクラス」 【84.6%】→それぞれ85% 普総選択アンケート（3年） 「普総選で学んでよかった」 【86.9%】→90%超えを目標に 取り組む</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【84.1%】、 「社会の新しい課題を学ぶ機 会」【80.0%】、「HRや総合で 生き方や将来について考えた」 【80.8%】→3つの項目すべて 83%を目標に取り組む 人権意識調査（3年） 「人権に関心を持っている」、 「自分を大切にする気持ちが 高まった」、「人間関係の大切さ を学んだ」の1年からの上昇、 「差別的な言動を見聞きした 時の態度」について『差別を指 摘し話し合う。伝える努力をす る』【13.7%↑】、『何もせずに 黙っている』【2.4%↓】という 2項目の1年から3年へ差し引 き5%以上の変化を目標に取り 組む</p>	<p>ア. 生徒向け自己診断については、若干減少が見 られることが懸念される。一人ひとりの生徒の 人格の尊重を核として、生徒と教師との関わり、 生徒と生徒とのつながりの質をどう高めるか、専門 性の向上に一層努めたい。(○) <u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「金剛高校に満足しているか」 85.1% 【87.1%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」 82.5% 【84.6%】 <u>普通科総合選択制高校アンケート（3年）</u> 「普総選高校で学んでよかった」 93.0% 【82.5%】</p> <p>イ. 3年間の人権学習を通じて、人権問題を自ら の問題、身近な仲間、地域の問題として捉えるこ とができた点は大いに評価できる。ただし、具体 的な行動にまでつなげる点が弱い。今後は人権問 題、当事者との出会い→かかわり、つながり→行 動、生き方の基本姿勢へを意識し、人権尊重の社 会の実現の主体として社会にコミットしようと する姿勢を育むことに重点を置きたい。(○) <u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「人権問題の理解」 87.5% 【84.1%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 82.3% 【80.0%】 「HRや総合で生き方や将来について考えたか」 88.8% 【80.8%】 <u>人権意識調査（3年）：1年次と3年次の比較</u> 「人権に関心を持っている」 17.9%↑：3年次83.7%←1年次65.8% 「自分を大切にする気持ちが高まった。」 5.2%↑：3年次76.0%←1年次70.8% 「人間関係の大切さを学んだ。」 2.7%↓：3年次89.5%←1年次92.2% 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度 をとるか。」 ○『差別を指摘して話し合う。伝える努力をす る。』 2.6%↓：3年次57.7%←1年次60.3% ○『何もせずに黙っている。』 0.3%↑：3年次14.0%←1年次13.7%</p>
--	---	---	---	--

府立金剛高等学校

<p>4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード(1年生)の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。 支援教育研修の充実。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。 共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。</p> <p>ウ. たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>エ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【72.5%】→75%を目標に取り組む</p> <p>イ. ケース会議の適切な開催 学期1～2回、年間5回程度</p> <p>ウ. 自己評価による成果と課題を学校協議会に提示、意見をもろう</p> <p>エ. 自己評価による成果と課題を学校協議会に提示、意見をもろう</p>	<p>ア. 生徒を背景まで含めて理解する姿勢、生徒の発するシグナルを素早くキャッチして、情報共有しチームとして迅速かつ適切に指導・援助できる校内体制ができていることが本校の「よさ」である。今後も人権教育委員長、教育相談委員長、支援教育コーディネーターと学年団、分掌との連携による、指導・支援体制を充実させていきたい。 (◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 80.7% 【72.5%】</p> <p>イ. 様々な課題を抱える生徒について、本校のSCや教育センター適応指導教室、関係中学校、行政機関、民間支援団体等の関係機関と連携・協力し、適切な支援ができた。(◎)</p> <p>ウ. 今年度3学年がそろい、共生支援Co、担任を中心に、粘り強く一つひとつの課題解決に取り組んできた。特に初年次生について、行政や地域の支援機関、専門家の協力、たまがわ高等支援本校と丁寧に連携し、生活支援、学習支援のあり方を模索し、進路に向けて一定の着地点を得られた。今後は共生推進教室をより軌道に乗せるため、学校全体としてのコンセンサスの確立が必要。(○)</p> <p>エ. 今年度の新入生歓迎オリエンテーションで、共生推進室の生徒が全校生徒の前で自己紹介できたことは画期的であった。文化祭や体育祭等の学校行事、授業や部活動など、共生推進教室の生徒が、周りの仲間とつながる機会を、積極的に増やしていき、「ともに学び、ともに育つ」つながりの質を高めることが今後の課題である。(○)</p>
<p>5. 規範意識の醸成</p>	<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。 あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進する。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 1400 以下を目標に取り組む 生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」【81.9%】→83%、「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【74.2%】→75%を目標に取り組む</p> <p>イ. 新入生の70%入部、60%定着</p>	<p>ア. 年間遅刻者について、生徒の基本的な生活習慣が安定してきたこと、そして生活指導部と各学年団の協力による粘り強い遅刻指導が効を奏して着実な成果をあげている。生活指導部と学年団の連携、粘り強い指導で839(12月末)に抑えた。2月末では1,096となり、年間を通じて丁寧に粘り強い取り組みはできた。今年度の課題を踏まえ次年度1,000以下に挑戦したい。 その他の生徒指導について、昨年度より数値が若干低いことが懸念されるが、生徒は概ねみんなが守るべき学校の規則、指導を理解し、その指導は適切と受け止めている。生徒の理解と納得に届く指導を今後更に追求する。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「学校生活全体の指導は適切。」 78.7% 【81.9%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切。」 67.1% 【74.2%】</p> <p>1年生のクラブ加入は1学期段階では70%に達した。2学期以降も60%程度の生徒が継続加入している。(○)</p>